

津波を忘れない

2011年の東日本大震災では津波の怖さを改めて思い知らされました。1946年の昭和南海地震で津波被害を受けた四国では、津波を忘れないようにとの思いを込めて石碑が各地に建立されています。徳島県牟岐町と高知県黒潮町の例をご紹介します。

■牟岐町南海震災記念碑（徳島県牟岐町）

昭和21年（1946）12月21日午前4時19分に発生した南海道地震及びそれに伴う津波により、牟岐町は92年前の安政の津波以来の災禍をこうむりました。被害は、死者52人、重軽傷者38人、行方不明者1人、住家の流失109戸、倒壊265戸、半壊162戸、浸水778戸、船舶の流失91隻、田畑の流失40町、浸水46町、道路の決壊10箇所、橋梁の流失6箇所などに及び、敗戦の痛手から立ち直ろうとしていた町民を、さらに打ちのめすことになりました。昭和53年に牟岐小学校横に牟岐町南海震災記念碑が建立されました。碑文には、瞬時にして荒廢の町と化したその痛ましい記録を刻み、犠牲者の霊を慰めるとともに後世への教訓とすると記されています。<牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」1976年、牟岐町教育委員会編「南海道地震津波の記録 海が吠えた日」1996年など>



■加茂神社の南海大地震の碑（高知県黒潮町）

昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、大地震が起こり、津波が発生しました。92年前の安政地震の恐怖を語り継いできた「大潮まつり」の行事が昭和初年に途絶えてから約20年が過ぎていました。旧大方町（現黒潮町）の被害は、死者22人、重傷者11人、住家の全壊258戸、半壊347戸、田の埋没8町歩、畑の埋没5町歩、護岸崩壊35箇所、堤塘崩壊22箇所、橋梁決壊3箇所、道路破損15箇所、砂防破損3箇所、津波による住家流失3戸、浸水44戸、津波による船舶流失5隻、破損20隻、船具漁具多数破損などに及びました。20年後の昭和41年に入野海岸の加茂神社に南海大地震の碑が建立されました。碑文には「天災は忘れた頃にやって来る」と刻まれています。<大方町史編集委員会編「大方町史」1963年、大方町史改訂編纂委員会編「大方町史」1994年など>

